

2023 原水禁世界大会 核抑止力では平和は保てない!



8月5日に似島少年少女のつどいを行いました。今年も長崎が本大会の位置付けでした。広島での世界大会には参加者がいつもより少なくなりますが、それでも愛知県と神奈川県から参加者の申し込みがあり、要員を含めて21人で実施しました。



似島は広島港から4kmの場所に位置する島です。この島は、1894年に陸軍検疫所が置かれて以来、馬匹検疫所や弾薬庫などが次々と設置され、ずっと戦争とかわって来ましたが、また、原子爆弾が投下された直後からは、被爆した人々が次々と運び込まれました。その数は1万人以上といわれています。今でも似島にはそれら、日本の加害と被害の両面の歴史を物語る多くの事実が残されています。しかし、その歴史はなかなか知られておらず、ガイドの説明に広島からの参加者も衝撃を受けていました。多くの戦争遺跡が残されていたのですが、「老朽化」を理由に歴史を語る遺跡が少なくなっています。今ではその面影を追いつながら当時の状況を知ることしかできないものもあります。貴重な写真などを元にガイドの説明に参加者は真剣に耳を傾けていました。



似島少年少女のつどい



今年も8月4日に国民平和大行進団が平和公園に到着し約280名で集会を行いました。今年で66回目となるこの集会では、現地実行委員を代表して神部議長がG7広島サミットで「核抑止」を公然と宣言したことに抗議し、「核抑止で平和は作れない! 日本政府に核兵器禁止条約への署名、批准せよ」の声を大きく上げよう」とあいさつしました。東京からの通し行進者の村上厚子さんは「91日間歩いた日々は貴重な毎日で、一生の宝になった」と元気にあいさつしました。



参加者の感想から



○似島について改めて学ぼうと参加させていただきました。貴重な歴史遺産だと思います。目の前で見て当時の人々のことを想像し、これを繰り返してはいけないという気持ちが高まっています。しかし、年々劣化している遺物は何とかが語り継ぐためにも保存できないかなあと思いました。似島のことをたくさんの方が知って、整備してさらに学べる島になるといいと思います。また参加してみたいなと思いました。

○このフィールドワークはすごく温かい場所だなと感じた。初めてあった人ばかりだったが、緊張せず話せる雰囲気があった。平和のために戦争を語り継ごう、広げようという気持ちが押し付けではない形であったからだと思う。みんなで歌ったのも良かった。自分もこのような雰囲気の中で平和を語ってみたい。

○今回初めて似島フィールドワークに参加して、被爆地ヒロシマのもう一つの側面である「加害」の歴史に触れることができてよかったです。6日から長崎大会に参加しますが、岡まさはる資料館を訪れる予定で、日本の被害と加害の両方を捉えて初めて平和について考えられると思います。最近のウクライナ侵略などで軍拡や核抑止が叫ばれていますが、過去の歴史を学び自分たちにとって最善の選択が何なのか考えていきたいです。



広島市教職員組合 (全教)
No. 8
2023. 8. 18

全教広島HP

市教委交渉日程決まる!
9月7日(木) 18:30
中区役所6F教育委員室

青年部企画

被爆体験講話&碑巡り

青年部が企画した「被爆体験講話&碑巡り」が8月12日に平和公園を中心に行われました。子どもを含む家族参加もあり、およそ30名で学習をしました。

まずはレストハウスの3F会議室で被爆体験伝承者の藤川さんが、平和公園周辺が「平和の軸線」を基調としてつくられていることに触れ、平和と文化のつながりの大切さを語ってく

れました。また碑巡りに関して、「原爆の被害を語る遺跡から当時の様子などは説明できるが、当時の『熱さ』と『におい』は再現できない」と語りました。それでも『追体験』をし、当時を想像することは大切と強調しました。

その後、3つのグループに分かれて、それぞれ藤川さん、大内さん、松井さんのガイドにより碑巡りを行いました。猛暑の中でしたが、参加者は真剣にガイドの説明に耳を傾け、質問などしながら、学習を深めました。

参加者の感想から

- 初めて知ることも多く、勉強になりました。広島に住み、当たり前のように見てきたものも、守り伝えようと尽力してきた方がたくさんいらっしゃったことを知りました。
- 土曜日は碑めぐりができてよかったです。ひろしまの被害の歴史、原爆が落とされた経緯、復興への人々の思いなどを学ぶことができました。また、長崎の浦上天主堂が保存されず、ニュース等での取り上げられ方を見ると、「なぜ残したいのか」「どのように発信するか」の視点で、子どもたちと考えていきたいと思いました。
- 今日はとても勉強になりました。10年近く前、自分が青年部だったころと同じ志を持って学習したことを思い出しました。やはり、自分の言葉で伝えたいという気持ちって大事なと思います。語り部の方々の高齢化により被爆体験を直接聞くことは難しくなりました。それでも戦争の悲惨さを引き継いで行くことは必要です。今日お話ししていただいたことの中には、初めて聞いたことも多く、まだまだ学ぶことがたくさんあるなど感じました。我が子にも今日の体験を通して、平和への願いを感じ取ってほしいと思いました。
- 私は数年前に6年生を担任したとき、平和公園内の碑について調べる学習をしました。それぞれの碑について事前知識は子どもたちと同じで、私も一緒になって調べたことを思い出しました。あのとき、もっと知識があれば…。それぞれの碑について、建てられた意味や建てた人の思いを知っていれば…。もっと深い平和学習ができていたのかなと思いました。また、子どもたちにとって、原爆や戦争を知るきっかけとなる教科書や資料館がアメリカにとって不都合となる情報を公開しないために、正しく戦争の歴史を伝えられていないということもわかりました。そして、被害の歴史だけではなく、加害の歴史もきちんと伝えていきたいと思いました。



2023 原水禁世界大会 ヒロシマデー集会

8月6日に行われた「ヒロシマデー集会」には約1500人が集まり、市教組(全教)からは15名が参加しました。集会ではカナダ在住の広島被爆者、サーロー節子さんが車いすで登壇し、被爆から核兵器禁止条約採択までの自身の歩みを絞り出すように語り、「次の時代を作るものは、主権者である市民社会の人々の意思と行動です。非核のトーチを受け継ぎ、これまでになく高く掲げてくれる、より若く、より強い手が必要です。」と訴えました。

また、国際社会が核兵器の脅威を根絶するために、直ちに力を尽くすことを訴える決議「広島から全ての政府への手紙」を採択しました。

原水爆禁止 2023年世界大会-広島決議

広島からすべての国の政府への手紙

原爆投下から78年目の8月6日に広島に集った私たちは、すべての国の指導者に、核兵器廃絶にむけた緊急の行動を訴えます。

ロシアのウクライナ侵略がつづき、核兵器が使用されかねない重大な情勢に直面しています。開発されればかりの一発の原子爆弾は、数万の市民を無差別に殺戮し、ここ広島を一瞬にして「地獄」と化しました。かろうじて生き延びた被爆者も、後遺症や差別に苦しめられました。今日の近代化された大量の核兵器の一部でも使用されるなら、それは人類の破滅につながります。核兵器を使用することは、いかなる状況でも断じて許されません。私たちは、国際社会がその脅威を根絶するために、ただちに力を尽くすことを訴えます。

5月に広島で開かれた主要7カ国首脳会議(G7)は、核兵器は「侵略を抑止し、戦争と威圧を防止する」と、「核抑止力」論を公然と宣言しました(「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」)。「核抑止」とは、ヒロシマ・ナガサキの惨劇をもたらすことを前提にした威嚇に他なりません。私たちは、被爆地と被爆者を愚弄するこの宣言を断固として拒否します。被爆地・広島から発信すべき真のメッセージは、核兵器の使用とその威嚇を許さず、核兵器のない世界を一刻も早く実現することに他なりません。

現実に戦争が進行し、軍事的緊張が高まっているからこそ、軍縮、とりわけ核軍縮の前進が強く求められています。私たちは現在、オーストリアのウィーンでひらかれている第11回核不拡散条約(NPT)再検討会議の第1回準備委員会が、「核軍備撤廃の有効な措置に関する交渉」を行うことを定めた第6条とともに、「核軍備の完全廃絶」の誓約(2000年)、「核兵器のない世界の平和と安全の達成」とそのための「枠組」づくり(2010年)など、これまでの再検討会議の合意を実行する実質的な成果をあげることを求めます。

史上初めて核兵器を違法化した核兵器禁止条約(TPNW)が発効し、支持と参加が広がっていることは、私たちにとって大きな希望です。第1回締約国会議が、政治宣言と行動計画を採択し、条約の運用がはじまっていることを心から歓迎します。TPNWは「核兵器のない世界」という目標達成にむけてNPTを補完するものであり、矛盾するものではありません。NPTに参加するすべての国が、TPNWを支持し、参加することを訴えます。

私たちは市民社会の一員として、諸政府、国連機関と共同して、「核兵器のない世界」の実現にむけて尽力する決意を表明します。原水爆禁止2023年世界大会に参加した私たちは、日本の政府が「核の傘」への依存をあらため、核兵器禁止条約に参加するよう力を尽くします。

あなた方が、この広島からの訴えに答えて、行動されることを心から希望します。

2023年8月6日

原水爆禁止 2023年世界大会-ヒロシマデー集会